



ID	品名	番号	メーカー	成分	原料	製造国	製造工程	有	無	無	病原体/CFU	出典	概要	
12	2009/9/3	90420	ジェンサイム・ジャパン	イデュルスルファーゼ(遺伝子組換え)	トリブシン	ブタ脾臓	デンマーク、米国、カナダ	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; 749-752	米国ミシガン州では2009年4月26日以降、新型インフルエンザの感染が州全域で広がり、6月18日現在、疑いもしくは確定患者は655例であった。5月26日-6月18日において、ARDSを発症し、高度専門医療ICUに入院した患者で、新型インフルエンザA (H1N1)の感染が確認されたミシガン州内10例の臨床的特徴について概要が報告された。10例は5月22日-6月13日に発症し、年齢中央値は46歳(21-53歳)であった。10例中2例は肥満、7例が極度の肥満であり、5例が肺塞栓症、9例が多臓器不全を煩い、3例は発症から17-30日後に死亡に至った。10人とも肺の損傷が大きいため高性能人工換気が必要とした。これらの症例の肥満率の高さは合併症のリスク因子として注目すべきである。
13	2009/9/3	90421	ジェンサイム・ジャパン	イデュルスルファーゼ(遺伝子組換え)	アフィニティーカラム樹脂(大腸菌による遺伝子組換えたん白質)	ウシ組織(脂肪細胞、骨髄、結合組織、心臓及び骨格筋)	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
14	2009/9/3	90422	ジェンサイム・ジャパン	イデュルスルファーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	米国	製造工程	無	無	無			
15	2009/9/3	90423	ジェンサイム・ジャパン	イデュルスルファーゼ(遺伝子組換え)	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
16	2009/9/3	90424	ジェンサイム・ジャパン	イデュルスルファーゼ(遺伝子組換え)	イデュルスルファーゼ(遺伝子組換え)	ヒト培養細胞	宿主細胞は、American Type Culture Collection(ATCC)から入手したヒト繊維肉腫由来細胞HT-1080である	有効成分	無	無	無			
17	2009/9/4	90425	中外製薬	ベバシズマブ(遺伝子組換え)	ペプトン	ブタ胃組織	米国	製造工程	無	無	無			
18	2009/9/4	90426	中外製薬	ベバシズマブ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞	不明	製造工程	無	無	無			

ID	発注日	発注番号	発注名称	品名	用途	製造国	製造工程	無	無	無	出典	概要	
19	2009/9/8	90427	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシの肝臓	ウシの肝臓	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無		
20	2009/9/8	90428	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ビーフハートインフュージョン	ウシの心臓	インド、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無		
21	2009/9/8	90429	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシ肉エキス	ウシの肉、骨、脂肪	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無		

ID	登録年月	承認番号	製薬会社	成分	原料	製造国	製造工程	無菌	無動物成分	無遺伝子組み換え	出典	概要
22	2009/9/8	90430	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降破傷風トキソイド	スキムミルク	ウシの乳	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無	
23	2009/9/8	90431	阪大微生物病研究会	百日せきワクチン 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン	ポリペプトン	ウシの乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無	
24	2009/9/8	90432	阪大微生物病研究会	インフルエンザワクチン インフルエンザHAワクチン 沈降新型インフルエンザワクチン(H5N1)	尿膜腔液	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無	
25	2009/9/8	90433	阪大微生物病研究会	乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン	Vero細胞	アフリカ緑ザル健康成体の腎臓	1962年千葉大学で腎臓細胞を培養、株化	製造工程	無	無	無	
26	2009/9/8	90434	阪大微生物病研究会	発疹チブスワクチン	卵黄囊	発育鶏卵	該当なし(製造中止品)	製造工程	無	無	無	
27	2009/9/9	90435	ファイザー	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタの腸	中国	有効成分	無	無	無	

ID	受理日	受理番号	製作者名	商品名	生薬名	原料名	製造国	含有成分	文庫	添付	適正 使用 期間	副作用(PAT)	出典	概要
28	2009/9/9	90436	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	カザミアシンド	ウシの乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
29	2009/9/9	90437	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥痘そうワクチン 沈降精製百日せきワクチン コレラワクチン ジフテリアトキソイド ワイル病秋やみ混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ポリペプトン	ウシの乳	ニュージーランド、中国	製造工程	無	無	無			
30	2009/9/9	90438	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシの乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
31	2009/9/9	90439	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ心臓透析外液	ウシ心臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	登録日	承認番号	製造者	成分名	生薬	製剤	製造国	製造工程	無	無	無	副作用(PT)	出典	概要
32	2009/9/9	90440	武田薬品工業	インフルエンザHAワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
33	2009/9/9	90441	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ニワトリ胚細胞	ニワトリ胚	日本	製造工程	無	無	無			
34	2009/9/9	90442	武田薬品工業	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ペブシン	ブタ胃	アメリカ合衆国	製造工程	無	無	無			
35	2009/9/9	90443	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	トリブシン	ブタ臍臓	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	無	無	無			
36	2009/9/9	90444	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	バクトカジト	ウシの乳	ニュージーランド、アメリカ合衆国、オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	製作者	製品名	原料	成分	製造国	製造工程	無	無	無	副作用(P7)	出典	概要
37	2009/9/9	90445	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウシ血清	ウシ血液	アメリカ合衆国、ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
38	2009/9/9	90446	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	スキムミルク	ウシ乳	アメリカ合衆国、日本	製造工程	無	無	無			
39	2009/9/9	90447	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肝臓	ウシ肝臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			

															概要
40	2009/9/9	90448	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ウマ血清	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無				
41	2009/9/9	90449	武田薬品工業	痘そうワクチン 乾燥痘そうワクチン	ウシ皮膚	ウシ皮膚	日本	製造工程	無	無	無				
42	2009/9/9	90450	武田薬品工業	ワイル病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギ血液	日本	製造工程	無	無	無				
43	2009/9/9	90451	武田薬品工業	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血清	日本	有効成分	無	無	無				
44	2009/9/9	90452	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肉水	ウシ肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無				
45	2009/9/10	90453	シオノケミカル	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	イタリア	有効成分	無	無	無				
46	2009/9/11	90454	バイエル薬品	レビパリンナトリウム	レビパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	有	無	無	エボラ出血熱	WHO 2009 February 3	2009年1月23日、フィリピンにおいてブタからの感染と考えられるエボラウイルス・レストン株抗体陽性者が確認され、1月30日、さらに4例の抗体陽性者が確認されている。現在まで抗体陽性者の健康状態は良好であり、過去12ヶ月以内に主だった症状を呈していない。	



ID	受理日	申請	製薬会社	一般名	学名	原料	製造工程	有効成分	無	無	無	製造工程	概要
													CFIA(Canadian Inspection Agency)は米国南部やメキシコで発生したブタインフルエンザのヒト症例を報告してきたが、これまでの情報はウイルスのヒト間での伝播が起きていることを示しており、PHAC(Public Health Agency of Canada)はこの状況に対するカナダ(国家または政府)としての対応を調整し、CFIAは要求に応じたサポートや専門知識を提供している。現時点では、カナダのブタに病気や死亡の増加を示す兆候はないが、CFIAは生産者、獣医師や研究所に監視を強化し、ブタの病気を報告するよう要請している。ブタにおける疑わしい例は獣医師、州当局もしくはCFIAに報告し、重篤なインフルエンザ様症状を呈するヒトは医療従事者に連絡するよう推奨している。
47	2009/9/14	90455	田辺三菱製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	マウス脾臓細胞と骨髓腫細胞を融合した細胞にヒト遺伝子を導入した細胞株	米国、カナダ	有効成分	無	無	無		
48	2009/9/14	90456	田辺三菱製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ蛋白加水分解物	ウシ脾臓、ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無		
49	2009/9/14	90457	田辺三菱製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無		
50	2009/9/14	90458	田辺三菱製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	無	無	無		
51	2009/9/14	90459	田辺三菱製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシリポ蛋白	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無		
52	2009/9/14	90460	田辺三菱製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシアポトランスフェリン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無		
53	2009/9/14	90461	田辺三菱製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	マウス骨髓腫由来細胞	マウス骨髓腫	10数年前に樹立したマスターセルバンクに使用した動物の細胞株	製造工程	無	無	無		
54	2009/9/15	90462	マイラン製薬株式会社	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸	中国	有効成分	無	無	無		
55	2009/9/16	90463	北里研究所	コレラワクチン	ウシ心臓抽出物	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無		

															概要
56	2009/9/16	90464	北里研究所	コレラワクチン 沈降精製百日せき ジフテリア破傷風 混合ワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	ニュージー ランド、オ ーストラリア	製造 工程	無	無	無				
57	2009/9/16	90465	北里研究所	コレラワクチン	ビーフエキ ストラクト	ウシ筋肉	オーストラ リア	製造 工程	無	無	無				
58	2009/9/16	90466	北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破 傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソ イド 沈降精製百日せき ジフテリア破傷風 混合ワクチン	スキムミル ク	ウシ乳	米国	製造 工程	無	無	無				
59	2009/9/16	90467	北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破 傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソ イド 沈降精製百日せき ジフテリア破傷風 混合ワクチン	ペプトン	ウシ乳	中国、ポー ランド、 ニュージー ランド	製造 工程	無	無	無				
60	2009/9/16	90468	北里研究所	乾燥弱毒生麻しん ワクチン 乾燥弱毒生風しん ワクチン 乾燥弱毒生おたふ くかぜワクチン	ラクトアル ブミン水解 物	ウシ乳	オーストラ リア、ニュ ージーランド、 米国、カナ ダ	製造 工程	無	無	無				
61	2009/9/16	90469	北里研究所	乾燥弱毒生麻しん ワクチン 乾燥弱毒生風しん ワクチン 乾燥弱毒生おたふ くかぜワクチン	エリスロマ イシンラク トビオン酸 塩	ウシ乳	ニュージー ランド、カナ ダ、米国、オ ランダ、ベル ギー、ドイ ツ、ルクセン ブルク	製造 工程	無	無	無				
62	2009/9/16	90470	北里研究所	乾燥弱毒生麻しん ワクチン 乾燥弱毒生風しん ワクチン 乾燥弱毒生おたふ くかぜワクチン	ウシ胎児 血清、新生 仔牛血清	ウシ血液	ニュージー ランド、オ ーストラリア	製造 工程	無	無	無				

品名	製造年月	製造番号	製造会社	成分	製剤	製造国	製造工程	無	無	無	製造工程	出典	概要
63	2009/9/16	90471	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	乳糖水和物	ウシ乳	ニュージーランド	添加物	無	無	無		
64	2009/9/16	90472	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ヒツジ血清	ヒツジ血液	米国	製造工程	無	無	無		
65	2009/9/16	90473	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	トリブシ	ブタ臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1) N Engl J Med 2009; 360: 2605-2615	4月15日から5月5日の間、米国の41州において、総計642症例からヒトにおける新規ブタインフルエンザ(H1N1)ウイルスの感染を確認した。
66	2009/9/16	90474	北里研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン 沈降インフルエンザワクチン(H5N1株)	発育鶏卵	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無		
67	2009/9/16	90475	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ニワトリ胚初代培養細胞	孵化鶏卵	日本、米国	製造工程	無	無	無		
68	2009/9/16	90476	北里研究所	日本脳炎ワクチン	マウス脳乳液	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無		
69	2009/9/16	90477	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ血清	ウマ血液	米国	製造工程	無	無	無		
70	2009/9/16	90478	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ脱繊維素血液	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無		

No.	登録日	承認番号	製薬会社	薬名	成分	作用	原産国	有効成分	有	無	無	修正 承認 番号	感染症(IFT)	出典	概要	
71	2009/9/16	90479	日本メジ フィジックス	放射性医薬品基 準テクネチウム大 凝集人血清アルブ ミン(99mTc)注射液	テクネチウム大凝集 人血清アルブ ミン (99mTc)	生物学的 製剤基準 人血清アル ブミン	日本	有効 成分	有	無	無		新型インフル エンザ (H1N1)	共同通信HP 2009 April 28 / WHO 2009 April 28	WHOは新型インフルエンザのPandemic Alertをフェーズ4に引き 上げた。	
		90479											レンサ球菌 感染	日本化学療法学 会第57回総会 201	50代後半の男性が右母指のウオノメをカッターで自己切除した ところ黒変し、その範囲は急速に拡大。右下肢の腫脹が起こり 入院。右母指には悪臭と壊疽を伴う重度の蜂巣炎、X線所見で 右大腿部にガス像を認めた。Streptococcus dysgalactiae subsp. dysgalactiaeによる初めてのヒト感染例と考えられる。	
72	2009/9/16	90480	沢井製薬	トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージ ーランド、オ ーストラリア、 アルゼンチ ン	有効 成分	無	無	無					
73	2009/9/16	90481	沢井製薬	ダルテパリンナトリ ウム	ダルテパ リンナトリウ ム	ブタ小腸粘 膜	中国	有効 成分	有	無	無		新型インフル エンザ (H1N1)	Eurosurveillance 2009; 14: 1-6	フランスInVSは、2009年7月16日までに報告され、パンデミック H1N1インフルエンザと関連のある死亡574例を用いて疫学調査 を行った。2009年7月16日現在の報告症例数に対する、報告さ れた死亡数の割合を示す「計算値CFR」は0.6%であり、国によっ て0.1-5.1%の開きがあった。パンデミックH1N1インフルエンザは 主に子供に発症すると報告されたが、343死亡例の平均値は37 歳(0-85歳)であり、20-49歳において死亡が多かった。妊娠女 性は16例であったが、死亡した女性の10%であり、死亡した20- 39歳の30%であった。基礎疾患の有無が判明している241例の うち、90%に基礎疾患があり、2つのリスクファクター、妊娠とメタ ボリック症候群が特に重要であると考察された(これまでの季節 性インフルエンザではリスクファクターとは見なされなかった肥 満を含んでいる)。	
74	2009/9/16	90482	沢井製薬	ウリナスタチン	ウリナスタ チン	ヒト尿	中国	有効 成分	有	無	無		新型インフル エンザ (H1N1)	CCDR weekly 2009; 2: 31 FluWatch (Week30)	カナダPHAC(Public Health Agency of Canada)によるパンデミック (H1N1)ウイルスの監視と疫学調査の週間報告である。2009 年7月26日-8月1日の週は、全体のインフルエンザ活動は前の 週より低く、新たに発生したアウトブレイクはなく、ILI(influenza- like illness)診察の割合も低かった。しかし、インフルエンザ検査 で陽性を示した割合は若干増加した。今週、3例の死亡が報告 され、パンデミックが起こって以来死亡総数は60例となった。感 染した女性、年齢中央値および基礎疾患を呈する症例の割合 は、病気の重症度に伴い増加した。15歳以下の症例は、高い 入院割合を示したが、1歳以下の子供を除いて低い死亡率で あった。65歳以上の大人は低い入院率であるが、比較的高い 死亡率であった。	

ID	受理日	番号	種別	品名	原料	製造	製造国	製造工程	無	無	無	修正	出展	概要
75	2009/9/17	90483	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肝臓	ウシ肝臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
76	2009/9/17	90484	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肉	ウシ肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
77	2009/9/17	90485	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートイン フュージョン アガー	ウシ乳・心臓	該当なし(製造中止品目)	製造工程	無	無	無			
78	2009/9/17	90486	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートイン フュージョン ブイオン	ウシ乳・心臓	該当なし(製造中止品目)	製造工程	無	無	無			
79	2009/9/17	90487	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶウマ 抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
80	2009/9/17	90488	化学及血清療法研究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむしウマ 抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
81	2009/9/17	90489	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ワイル病治療血清 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	血清	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

登録番号	登録日	申請番号	申請内容	原料	製造工程	製造国	製造工程	有効成分	有	無	無	出典	概要
82	2009/9/17	90490	化学及血清療法研究所 インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	発育鶏卵	ニワトリ発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
83	2009/9/17	90491	化学及血清療法研究所 ウイルス病治療血清	肝臓	モルモット肝臓	該当なし(製造中止品目)	製造工程	無	無	無			
84	2009/9/17	90492	化学及血清療法研究所 ウイルス病治療血清	血液	モルモット血液	該当なし(製造中止品目)	製造工程	無	無	無			
85	2009/9/17	90493	化学及血清療法研究所 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せき ジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ハートエキス	クジラ心臓	海洋生物由来の原材料	製造工程	無	無	無			
86	2009/9/17	90494	化学及血清療法研究所 乾燥はぶウマ抗毒素	はぶ毒	ハブ毒素	日本	原材料	無	無	無			
87	2009/9/17	90495	化学及血清療法研究所 乾燥まむしウマ抗毒素	まむし毒	マムシ毒素	日本	原材料	無	無	無			
88	2009/9/17	90496	化学及血清療法研究所 乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	乳糖水和物	ウシ乳	ニュージーランド	添加物製造工程	無	無	無			
89	2009/9/17	90497	化学及血清療法研究所 乾燥日本脳炎ワクチン 日本脳炎ワクチン	脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
90	2009/9/17	90498	化学及血清療法研究所 乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	抗破傷風人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	ProMED-mail 20090129.0400	ユンガンウイルスは、マウスにおいて胎児死亡や奇形を起こすことが知られているが、疫学的データから、ヒトにおいても子宮内胎児死亡に関連していることが示唆された。

ID	報告機関	報告年月	報告内容	報告国	報告種別	報告機関	報告内容	報告国	報告種別	報告機関	報告内容	報告国	報告種別	概要
											レトロウイルス(XMRV)	日本ウイルス学会 第56回学術集会 2P111		日本でのXMRV感染のスクリーニングを行い、前立腺がん患者では2/30例、献血者では5/120名が抗体陽性であった。さらに抗体陽性前立腺がん患者血清1検体よりウイルス核酸を検出した。日本国内の前立腺がん患者集団中にXMRV感染の存在が示唆された。
											コレラ	CDC/Travelers' Health 2009 February 4		ジンバブエ保健当局からのコレラアウトブレイクの報告。2008年8月26日から2009年1月31日までに61,304例の感染疑い、3,181例の死亡。また、ボツワナ、モザンビーク、ケニア、マラウイ、ナミビア、ナイジェリア、ギニアビサウ及びトーゴといった周辺国からも発生が報告されている。
											異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	HPA 2009 February 17		vCJDと関連のない疾患で死亡し、生前にvCJD又は他の神経学的症状を示していなかった男性血友病患者の剖検時に、異常プリオンタンパクが確認された。この男性は、献血後にvCJDを発症したドナー血漿を含む原料から製造された第Ⅷ因子製剤を使用していた。
											マラリア	CDC/MMWR 2009; 58; 229-232		近年、5番目のマラリア原虫として、サルマラリアである Plasmodium knowlesi のヒトへの感染例がマレーシア及びその周辺において多数確認されており、人畜共通感染症の病原体として新興している可能性が示されている。
											細菌感染	日本細菌学会第 82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182		Anaplasma phagocytophilumによるアナプラズマ症の本邦初の症例。2002～2003年の高知県で日本紅斑熱が疑われた18例の血餅から、2例で、A. phagocytophilumに特異的なp44/msp2外膜蛋白遺伝子群のPCR産物が検出された。
											新型インフル エンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)		2009年4月17、米CDCはカリフォルニア南部の小児2例の熱性呼吸器疾患をプタインフルエンザA(H1N1)感染であると特定した。2症例から検出されたウイルスは、アマンダジン、リマンダジンに抵抗性があり、米国やそれ以外の国でも報告されたことがないプタ又はヒトインフルエンザウイルスの遺伝子片を併せ持っており、固有の遺伝子断片の組み合わせが含まれていた。いずれの小児もプタとの接触はなく、感染源は不明である。

ID	登録日	登録番号	申請種別	商品名	原料	製造国	有効成分	無効成分	無	無	無	出典	概要
91	2009/9/17	90499	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XIII因子	アプロチニン	ウシ肺臓	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	兵庫県神戸市における新型インフルエンザ(インフルエンザA/H1N1)が疑われる患者発生についての報告。国内最初の新型インフルエンザ患者が確認された。患者は10代後半の男性。本人に渡航歴はない。国立感染症研究所からの検査の結果、A型(+)、ヒトH1(-)、ヒトH3(-)、新型H1(+であったため、新型インフルエンザ(インフルエンザA/H1N1)が否定せず、新型インフルエンザが疑われる患者として神戸市に届出があった。患者は感染症法に基づき、神戸市内の感染症指定医療機関に入院した。
92	2009/9/17	90500	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ワイル病治療血清 沈降精製百日せき ジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ポリペプトン	ウシ乳	中国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無		
93	2009/9/17	90501	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 破傷風トキソイド	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無		
94	2009/9/17	90502	化学及血清療法研究所	ワイル病治療血清	血清	ウサギ血液	該当なし製造中止品	製造工程	無	無	無		
95	2009/9/17	90503	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無		



ID	登録日	登録番号	製薬会社名	商品名	成分	対象動物	製造国	有効成分	有	無	無	無	出典	概要
96	2009/9/17	90504	光製薬	ダルテパリンナトリウム注射液	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	無	口蹄疫 OIE 2009 March 26	中国における口蹄疫:発生日 2009年3月17日、最初の確定日 2009年3月20日、報告日 2009年3月25日、原因 口蹄疫ウイルス アジア1型。2009年3月17日にモンゴル国内、E'erduosi, Etuoke, Sumitu Sumuで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ウシ235頭、ヒツジ885頭およびブタ1頭、発生頭数はウシ20頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
													新型インフルエンザ (H1N1) ProMED-mail 20090506.1695	2009年5月、中国のブタにおけるH1ウイルスの多様性についての報告である。過去10年、中国のブタで流行しているインフルエンザウイルスのほとんどはH1N1(h1.3.2もしくは古典型)およびH3N2(h3.1.5)ブタインフルエンザウイルスであった。2003年以降、H9N2トリインフルエンザウイルスがブタから、また、ヒトH3N2およびH1N1インフルエンザウイルスもブタから検出された。更には、由来が異なる遺伝子セグメントのリアソータントが出現し、2004年以降、リアソータントH1N2ブタインフルエンザウイルスが検出されている。現在、ヒトで流行しているA(H1N1)ブタインフルエンザは、これまでに中国内では確認されていないが、ブタにおける監視が必要である。また、この記事ではH1ウイルスを検出し区別するためのプライマーを提案している。
													口蹄疫 OIE 2009 May21	中国における口蹄疫:発生日 2009年4月28日、最初の確定日 2009年5月14日、報告日 2009年5月15日、原因 口蹄疫ウイルス アジア1型。2009年4月28日にGUANGXI省、Guilin地区 Lingchuanで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ウシ40頭およびブタ60頭、発生頭数はウシ1頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
													口蹄疫 OIE: 2009May22	中国における口蹄疫:発生日 2009年5月14日、最初の確定日 2009年5月21日、報告日 2009年5月22日、原因 口蹄疫ウイルス A型。2009年5月14日にGUIZHOU省Liupanshui地区Panで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ウシ78頭およびブタ19頭、発生頭数はウシ71頭およびブタ19頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
													口蹄疫 OIE 2009 May22	中国における口蹄疫:発生日 2009年4月25日、最初の確定日 2009年5月21日、報告日 2009年5月22日、原因 口蹄疫ウイルス A型。2009年4月25日にGUANGXI省Guilin地区Lin'guiで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ウシ184頭およびブタ570頭、発生頭数はウシ12頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。

ID	発症日	年齢	製薬会社	薬名	作用機	原産国	有効成分	有	無	無	感染症(PT)	出典	概要
											新型インフルエンザ (H1N1)	ProMED-mail 20090526.1962	2009年5月11日-25日、中国本土で報告のあったヒトA型に感染した12症例の疫学調査である。全例が国際便(アメリカ・カナダ・オーストラリア)を利用した輸入例であり、7例は感染確認前に国内で移動していた。年齢は2歳から69歳、10例が男性であった。2例のみが飛行場の体温スキャンによって感染を疑われ、残りは目的地到着後に症状を呈した。確認が報告されたのは、目的地飛行場到着後1-6日であり、重症に至る者はいなかった。到着飛行場で疑われたのは2例のみであったことから、国際便による輸入例を防げず、また、7例は感染確認前に国内移動をしており、症状を呈するまでに日数を要した事も考慮すると、他の人への感染や国内でのアウトブレイクの可能性は極めて高いと報告された。
											新型インフルエンザ (H1N1)	ProMED-mail 20090608.2117	2009年6月5日、アジアにおけるインフルエンザA(H1N1)感染が確定された症例数の報告である。タイ:7例、ベトナム:5例、中国(本土):61例、中国(香港):30例、日本:410例、マレーシア:5例、フィリピン:33例、シンガポール:12例であった。
											E型肝炎	Chinease J Exp Clin Virol; 2008:22:24-26	河南5地区において月例の異なるブタのE型肝炎ウイルス(HEV)感染状況が調査された。月例の違い(3ヶ月齢以下もしくは以上)による抗体陽性率に有意差はなかったが、抗原陽性率では、3ヶ月齢以下の方が有意に高い陽性率であった。また、河南地区のブタのHEV陽性率は比較的高く、かつ、各地区間の抗原および抗体陽性率には統計学的有意差が認められた。必要な予防措置を取り、HEVのブタ群における伝播と感染を減少させ、ヒトへの拡散を防止する必要がある。
											新型インフルエンザ (H1N1)	ProMED-mail 20090616.2221	2009年6月12日までに中国本土で確認されたヒトA(H1N1)感染120症例の疫学調査である。104例が輸入例であり、国内感染14例のうち感染源が未知な例は2例であった。輸入例は北米・オーストラリア以外に、イエメン・ベネズエラ・フィリピン・アルゼンチン・日本からであった。輸入例104例のうち5例のみが他へ感染を広め、これが感染源既知の国内感染症例である。増幅率は0.2以下であり、北アメリカの報告より低かったのは、これまで行ってきた措置の結果である。120全例がインフルエンザ様症状を呈したが、重症例は認められず、15例は空港での検温で、2例は列車での検疫で発見された。
97	2009/9/18	90505	持田製薬	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン(hMG)	中国	有効成分	有	無	無	レトロウイルス(XMRV)	日本ウイルス学会 第56回学術集会 2P111	90498に同じ
											細菌感染	日本細菌学会第 82回総会(2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ

ID	報告国	年	月	疾病名	報告機関	報告日	報告者	報告内容	備考	備考	備考	備考	概要
				新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省(平成21年4月28日健感発0428003号)								メキシコや米国で発生している豚インフルエンザ(H1N1)を、感染症法に規定する「新型インフルエンザ」と位置づける。
				新型インフルエンザ (H1N1)	WHO/EPR 2009 May 14								2009年5月14日現在、33か国が正式に6497症例のインフルエンザA(H1N1)感染を報告した。メキシコは検査確認済みの2446症例(死亡症例60例を含む)を報告した。米国は3352症例(死亡症例3例を含む)、カナダは389症例(死亡症例1例を含む)、コスタリカは8症例(死亡症例1例を含む)であった。
				リケッチア症	第83回日本感染症学会総会 P214 O-152								平成20年8月、仙台市におけるリケッチア症例の報告である。患者血清からR.japonicaに対する抗体が陽性となり、シーケンス解析から極東アジア、ロシア、中国などの患者から報告されているR.heilongiangensisと一致した。現地ドブネズミはR.heilongiangensisに高い抗体価を示し、Haemaphysalis concinnaから患者と同じ遺伝子配列を有するリケッチアを分離した。国内には日本紅斑熱とは異なる紅斑熱リケッチア症の存在が示された。
				ウイルス感染	日本感染症学会第83回総会 P224 O-171								2007年に初めて報告された新興感染症コウモリオルソレオウイルス(別名: マラッカウイルス)による急性上気道炎の報告である。2007年11月にインドネシア・バリ島から帰国した男性は帰国数日前から発熱、関節痛が出現し、帰国後も強い上気道炎症状を呈し、オルソレオウイルス感染症と判明した。本ウイルスはコウモリを宿主とし、本患者はコウモリとの接触はなかったが、渡航先で上気道症状を呈する現地住民との接触があった。本患者では回復期に抗体が検出されたが、他の接触者は全て陰性であった。
				レンサ球菌感染	日本感染症学会第83回総会 P225 O-173								90479に同じ
		90505		細菌感染	日本感染症学会第83回総会 P225 O-174								国内初症例であるLactococcus garvieae感染性心内膜炎の報告である。心疾患の既往歴のない55歳女性は発熱が持続し、血液培養からStreptococcus sp.が検出された。感染性心内膜炎と診断され、感染性脳梗塞・感染性動脈瘤を併発したが、9週間の抗菌薬投与の結果回復した。L.garvieaeは養殖魚などへの原因菌であり、ヒトへの感染は希である。海外では13例目の感染報告であり、感染性心内膜炎としては9例目の報告である。

ID	受理日	種別	製薬会社	一般名	学名	剤形	原産国	有効成分	有	無	無	真正 使用 検査	感染症 (PT)	出典	概要
													真菌感染	日本感染症学会 第83回総会 P239 O-201	ヒトからのStephanoascus ciferrii検出例の報告である。国内では猫からの検出報告はあるが、ヒトからの検出は非常に稀である。78歳男性の中耳炎治療において、Candida属とは異なる酵母様真菌を検出し、同定検査の結果Candida ciferriiと同定された。
													ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360; 2099- 2107	New Yorkの62歳の男性は、シカダニウイルスに感染したシカダニの咬傷後に髄膜脳炎で死亡した。これまでシカダニウイルスのヒト感染は報告されていないが、この症例はシカダニウイルスが致命的脳炎の原因でありえることを示している。
98	2009/9/18	90506	持田製薬	日本薬局方 注射 用ヒト絨毛性腺 刺激ホルモン	日局 ヒト 絨毛性腺 刺激ホル モン	ヒト(妊婦) 尿	中国	有効 成分	有	無	無		レトロウイル ス(XMRV)	日本ウイルス学会 第56回学術集会 2P111	90498に同じ
													新型インフル エンザ (H1N1)	厚生労働省(平成 21年4月28日健感 発0428003号)	90505に同じ
													新型インフル エンザ (H1N1)	WHO/EPR 2009 May 14	90505に同じ
													リケッチア症	第83回日本感染 症学会総会 P214 O-152	90505に同じ
													ウイルス感 染	日本感染症学会 第83回総会 P224 O-171	90505に同じ
													レンサ球菌 感染	日本感染症学会 第83回総会 P225 O-173	90479に同じ
													細菌感染	日本感染症学会 第83回総会 P225 O-174	90505に同じ
													真菌感染	日本感染症学会 第83回総会 P239 O-201	90505に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分	原料名	原産国	有効成分	有効成分含有率	無効成分含有率	加工工程	ウイルス感染	出典	概要
99	2009/9/18	90507	持田製薬	日本薬局方 ヘパリンナトリウム注射液	日局 ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	フランス、デンマーク、スウェーデン、イギリス、アイルランド、スペイン	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360: 2099-2107	90505に同じ
												インフルエンザ	CFIA News Release 2009 May 2	カナダ食品検査機関(CFIA)からの報告で、豚群にH1N1インフルエンザが検出された。食料供給の安全性には影響がなく、カナダ産豚肉は食べても引き続き安全である。群れは検疫下に置かれ、CFIAは公衆衛生局と共同で作業をしており、これらの豚が人にウイルスを伝播させる機会は取り除かれた。カナダでは豚は呼吸器疾患における通常の検査を通して、全国規模で継続したインフルエンザウイルスの検査を行っている。
100	2009/9/18	90508	持田製薬	インターフェロンベータ	インスリン	ウシ膵臓	該当なし(インスリンは製造において未使用)	製造工程	無	無	無			
101	2009/9/18	90509	持田製薬	インターフェロンベータ	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
102	2009/9/18	90510	持田製薬	硫酸プラジオマイシン/結晶トリプシン インターフェロンベータ	トリプシン	ウシ膵臓	ニュージーランド、オーストラリア、ブラジル	有効成分 製造工程	無	無	無			
103	2009/9/18	90511	持田製薬	インターフェロンベータ	インターフェロンベータ	ヒト線維芽細胞	日本	製造工程	無	無	無			
104	2009/9/24	90512	フジモト・ダイアグノスティックス	-	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	日本白色種家兔皮膚抽出液	中国	有効成分	無	無	無			
105	2009/9/25	90513	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚	日本	有効成分	無	無	無			
106	2009/9/25	90514	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ウシ乳	ポーランド、中国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
107	2009/9/25	90515	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ブタ膵臓	日本、カナダ	製造工程	無	無	無			



ID	受理日	番号	製造者	一般名	学名	原料名	製造国	有効成分	有	無	無	適正 使用 措置	感染症 (PT)	出典	概要
													B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	日本における、不顕性HBV感染者 (HBsAg陰性) からの輸血によるB型肝炎感染に関する報告。
													新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	新型インフルエンザ (H1N1) の輸血を介した感染可能性について、輸血により季節性インフルエンザに感染した例はこれまで報告されることが無く、新型インフルエンザについても報告されていない。現時点で、輸血のメリットは新型インフルエンザの理論的リスクをはるかに上回る。なお、血漿分画製剤については製造工程におけるクリアランスが十分であることが確認されている。
													パルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	FDAが血漿由来製品の製造業者向けに提供するガイダンス。血漿由来製品の製造に使用される原料血漿および転用血漿用の製造過程において、ヒトパルボウイルスB19を検出するための核酸増幅検査 (nucleic acid test: NAT) を行う事を推奨している。すべての血漿由来製品について、製造プール中のパルボウイルスB19 DNAのウイルス負荷が10000IU/mLを超えない事を保障するために、 ○すべての血漿由来製剤に対し、製造用プール血漿中のHPV B19 DNAの濃度が10000IU/mLを超えないように、工程内検査としてHPV B19 NATを実施すべきである。 ○血漿由来製剤の製造に投入する血漿ユニットのスクリーニングには、ミニプールサンプルに対してHPV B19 NATを実施すること。HPV B19 NATで用いるプライマーおよびプローブは、このウイルスの既知のすべての遺伝子型を検出できるものを用いること。 ○血漿由来製剤の製造に投入する血漿ユニットに、製造用プール血漿のHPV B19 DNA濃度が104IU/mLを超えるような高値を示すものが見つかった場合は、当該血漿ユニットは使用しないこと。
116	2009/9/28	90524	日本製薬	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	人アンチトロンビンⅢ	人血液	日本	有効成分	有	無	無		異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb 2009 February 17	90523に同じ
													B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	90523に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
													パルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
117	2009/9/28	90525	日本製薬	トロンビン	トロンビン	人血液	日本	有効成分	有	無	無		異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb 2009 February 17	90523に同じ

ID	承認日	承認番号	製薬会社	成分名	剤形	血液成分	製造国	有効成分	有	無	無	疾患名 (ATC)	出典	概要
												B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	90523に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
												バルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
118	2009/9/28	90526	日本製薬	加熱人血漿たん白 人血清アルブミン (5%) 人血清アルブミン (20%) 人血清アルブミン (25%)	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb 2009 February 17	90523に同じ
												B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	90523に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
												バルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
119	2009/9/28	90527	ベネシス	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分 添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurology 2009; 8: 57-66	BSEプリオンに対するヒトの感受性についてSNPを解析した。PRNP遺伝子座はプリオン病のいくつかのマーカーと全てのカタゴリーを通じてリスクに強く関連していた。疾病リスクへの主な寄与はPRNP多型コドン129であったが、別の近傍のSNPによってvCJDのリスク増大がもたらされた。
												コクシジオイデス症	CDC/MMWR 2009; 58: 105-109	カリフォルニア州におけるコクシジオイデス症の報告数及び入院数は2000~2006年の間毎年増加しており、1995~2000年の3倍以上(8/10万人)となった。米国のコクシジオイデス症全体の約60%を占めるアリゾナ州でも同様で、2006年には5,535例(91/10万人)と増加している。米国全体でも、1996年の1,697例から2006年には8,917例(6.97/10万人)に増加しており、流行地への訪問や居住歴のあるインフルエンザ様症状や肺炎、播種性感染症の患者では本症が鑑別されるべきである。



ID	発症日	患者	発生地	年齢	性別	職業	経過	検査	診断	出典	概要
									異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96; 270	1995年から3回/週でIVIg治療を受けていた61歳女性は、1997年1月～1998年2月の期間に、後にvCJDを発症した供血者由来の製剤を使用していた。この女性の死亡後、剖検により脾臓、リンパ節、脳内のプリオン蛋白を検査したが、検出されなかった。
									細菌感染	日本細菌学雑誌 2009; 64; 220	Anaplasma phagocytophilumによるアナプラズマ症の本邦初の症例。2002～2003年の高知県で日本紅斑熱が疑われた18例の血餅から、2例で、A. phagocytophilumに特異的なp44/msp2外膜蛋白遺伝子群のPCR産物が検出された。
									新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
									新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
									新型インフルエンザ (H1N1)	Science 2009; 10.1126/SCIENCE .1176062	新型インフルエンザA(H1N1)ウイルスは世界中に急速に広がっている。パンデミックの可能性を判断するのはデータが限られているため難しいが、適切な保険対応を伝えるには必須である。メキシコでの大流行、国際的な広がりの早期情報およびウイルス遺伝的変異について分析することにより、感染力と重症度の早期評価を実施した。
									リケッチア症	第83回日本感染症学会総会 2009 April 23-24	平成20年8月、仙台市においてリケッチア症を疑う患者が発生した。生検材料を用いたPCRにより陽性であったが、シーケンス解析により、ロシアや中国の患者から報告されているR.heilomgiangensisに一致した。国内に、日本紅斑熱とは異なる紅斑熱ケッチア症が存在することが示された。
									ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360; 2099- 2107	90505に同じ
									異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA 2009 May 22	2004年にHealth Protection Agencyは扁桃腺に蓄積されたvCJD関連プリオンタンパク質の大規模な調査により、無症候性vCJD保有率を検討するNational Anonymous Tissue Archive(NATA)を開始。既に63000例の扁桃腺組織の収集・解析を行っており、100000例まで収集する計画であるが、現在のところ陽性サンプルは一つもなかった。

種別	発症日	年齢	性別	国籍	居住地	職業	感染経路	診断	検査	治療	経過	感染症 (PT)	出典	概要
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMRW 2009; 58: 521-524	05～06年、06～07年、07～08年の季節性インフルエンザワクチン接種コホートの保存ベア血清を用いて、新型インフルエンザウイルスの交差反応性を検討した。18-64歳ではワクチン接種前に6～9%、60歳以上では33%が交差反応を示した。ワクチン接種後には交差反応を示した例が18-64歳で2倍程度に増え、60歳以上では全く増えなかった。
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2009; 4: e1000455	2008年に南アで発生した致死性出血熱のアウトブレイクにおいて、30年ぶりに新規の旧世界アレンウイルスが分離された。発見された地名 (Lusaka, Johannesburg) より、Lujo virusと命名された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 2009 June 5	血友病患者の脾臓中に異常プリオン蛋白質が発見されたことを受け、CJD事故委員会の要請により「vCJD Risk Assessment Calculations for a Patient with Multiple Routes of Exposure」報告書がDepartment of Healthによって作成された。感染可能性のある種々の経路を設定し、それぞれの相対的な感染確率を検討した報告である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/TSE advisory committee 2009 June 16	英国でvCJDに関連した凝固因子製剤を11年前に投与された血友病患者のvCJD感染の報告を受けて、米国におけるリスク管理戦略を再評価した。その結果は、米国で承認されている第Ⅷ因子製剤からのvCJD感染のリスクは極めて低いと考えられるが断言はできない、という従来と同様の評価である。
												アメリカ・トリパノソーマ症	FDA Guidance for Industry(draft) "Use of Serological Tests to Reduce the Risk of Transmission of Trypanosoma cruzi Infection in	Trypanosoma cruzi抗体検出用のELISA検査システムがCBERにより許可されたことをうけ、米国において、全血、血液成分及びHCT/Plsにおけるトリパノソーマ症伝播のリスク低減のためのドナースクリーニングについて、FDAよりドラフトガイダンスが公表された。最終版発表後1年以内にこのガイダンスに適合することが推奨されることとなる。
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; 773-778	2009年5月28日、Dallas County Department of Health and Human Services (DCHHS)は5月18-28日に、ダラス郡 (County) 内で入院した、新型インフルエンザA感染に関連した神経系の合併症を伴う4例の小児についてCDCに報告した。これまで季節性インフルエンザの気道感染に関連した神経系の合併症は報告されているが、新型インフルエンザに関しては報告がない。患者は7, 10, 11および17歳であり、ILI (influenza-like illness: インフルエンザ様症状)の症状と痙攣もしくは精神状態の変化のため入院し、3例に脳波に異常が認められた。また、4例すべてに新型インフルエンザA (H1N1)ウイルスRNAが鼻咽頭検査では認められ、脳脊髄液からは認められなかった。4例すべては回復し、神経学的後遺症はなかった。



ID	登録日	更新日	製薬会社	商品名	成分	剤形	承認国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA 2009 May 22	90527に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMRW 2009; 58: 521-524	90527に同じ
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2009; 4: e1000455	90527に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 2009 June 5	90527に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/TSE advisory committee 2009 June 16	90527に同じ
												アメリカ・トリパノソーマ症	FDA Guidance for Industry(draft) "Use of Serological Tests to Reduce the Risk of Transmission of Trypanosoma cruzi Infection in	90527に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: 773-778	90527に同じ
												バルボウイルス	Transfusion (Malden) 2009; 49: 1488-1492	90527に同じ
121	2009/9/28	90529	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurology 2009; 8: 57-66	90527に同じ
												コクシジオイデス症	CDC/MMWR 2009; 58: 105-109	90527に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96: 270	90527に同じ
												細菌感染	日本細菌学雑誌 2009; 64: 220	90527に同じ

種別	国名	地域	発症年	発症月	発症日	発症場所	発症人数	死亡人数	報告機関	報告日	出典	概要	
											新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
											新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
											新型インフルエンザ (H1N1)	Science 2009; 10.1126/SCIENCE.1176062	90527に同じ
											リケッチア症	第83回日本感染症学会総会 2009 April 23-24	90527に同じ
											ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360: 2099-2107	90505に同じ
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA 2009 May 22	90527に同じ
											新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMRW 2009; 58: 521-524	90527に同じ
											ウイルス感染	PLoS Pathogens 2009; 4: e1000455	90527に同じ
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 2009 June 5	90527に同じ
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/TSE advisory committee 2009 June 16	90527に同じ
											アメリカトリパノソーマ症	FDA Guidance for Industry(draft) "Use of Serological Tests to Reduce the Risk of Transmission of Trypanosoma cruzi Infection in .....	90527に同じ

ID	承認日	承認番号	申請者	原料	製造工程	製造国	有効成分	有	無	無	無	製造工程	輸血	概要	
													新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; 773-778	90527に同じ
													パルボウイルス	Transfusion (Malden) 2009; 49: 1488-1492	90527に同じ
122	2009/9/29	90530	北里研究所	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎初代培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無				
123	2009/9/29	90531	CSLベering	フィブリノゲン加第XⅢ因子	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無				
124	2009/9/29	90532	CSLベering	フィブリノゲン加第XⅢ因子	アンチトロンピン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	製造工程	有	無	無		異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96; 270	90527に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
													クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 49(5); 977-984	米国での調査研究の結果は、輸血によるCJD伝播については根拠に欠けるとしている。2004年以降、英国ではvCJDの輸血による伝播が報告され、変異型でないCJDもしくは古典的CJDの伝播のリスクについて懸念が高まってきた。1995年、米国赤十字社はCDGと共同で輸血によるCJD伝播の懸念を評価する詳細な疫学的データを得るために、供血後にCJDと診断された供血者(CJDドナー)の長期後ろ向き調査を開始し、CJDドナーの血液成分を投与された受血者を特定した。本結果からは、CJDの輸血による伝播を示す根拠は示されなかった。CJDドナーによる異常プリオンの輸血伝播のリスクは、vCJDドナーによる伝播のリスクと比べて顕著に低いことを後押しする結果となった。
125	2009/9/29	90533	CSLベering	フィブリノゲン加第XⅢ因子	フィブリノゲン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	無	無		異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96; 270	90527に同じ
		90533											新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
		90533											クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 49(5); 977-984	90532に同じ
126	2009/9/29	90534	CSLベering	フィブリノゲン加第XⅢ因子	トロンピン末	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	無	無		異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96; 270	90527に同じ

ID	受理日	番号	製剤名	成分	原料由来	原料形態	原産国	有効成分	有	有	無	遺伝子由来成分(BL)	出典	概要
												新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 49(5); 977-984	90532に同じ
127	2009/9/29	90535	CSLベーリング	人血清アルブミン 人血液凝固第Ⅷ因子 フィブリノゲン加第Ⅷ因子	人血清アルブミン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア、	有効成分 添加物	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb 2009 February 17	90523に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96; 270	90527に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 49(5); 977-984	90532に同じ
128	2009/9/29	90536	バクスター	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	人血漿	米国	有効成分	無	無	無			
129	2009/9/29	90537	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	無	有	無			
130	2009/9/29	90538	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	乾燥人血液凝固第Ⅷ因子	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			





品目	登録日	番号	製法	成分	原料	抽出液	製造国	有効成分	無	無	無	有効成分	出典	概要
135	2009/9/30	90543	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
136	2009/9/30	90544	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	クックドミート	ウシ心臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
137	2009/9/30	90545	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素	プロテオースペプトン	ウシ胃	米国	製造工程	無	無	無			
138	2009/9/30	90546	化学及血清療法研究所	乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	肝臓	ウマ肝臓	日本	製造工程	無	無	無			
139	2009/9/30	90547	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	血液	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
140	2009/9/30	90548	化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅹ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅹ因子	血液凝固第Ⅹ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA 2009 February 17	90498に同じ
												マラリア	CDC/MMWR 2009; 58: 229-232	90498に同じ
												細菌感染	日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料, 2009 May 16	90498に同じ

ID	報告日	報告番号	報告者	製品名	原料名	原料種別	製造国	製造工程	有効成分	有害成分	遺伝子検査	感染症(PT)	出典	概要
141	2009/9/30	90549	武田薬品工業	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
142	2009/10/1	90550	日本赤十字社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	A型肝炎	Eurosurveillance 2009 April 16; 14(15)	2008年9月1日-3月9日、スペイン・バルセロナにおいてA型肝炎に感染した150症例が報告された。この数は、前の2年の同時期と比べて3倍である。ほとんどの症例は、男性と性的関係を持つ男性(MSM)であることを報告した87名を含む、成人男性に発生した。これは、MSM集団におけるA型肝炎感染のアウトブレイクの可能性を示唆しており、感染リスクの高いコミュニティへのより効果的なワクチン接種プログラムの必要性を強調している。
												B型肝炎	日本小児感染症学会第40回総会・ 学術集会 E-20	母親がHBsAg陰性かつ家族内に患者以外のHBVキャリアが存在する成人及び小児HBVキャリアである7家族を対象とし、HBV全遺伝子解析に基づく分子系統樹を用いて感染源を検索したところ、3家族で父親以外の感染源の可能性があり、祖母からの感染は分子疫学的に感染経路を証明できた。
												B型肝炎	日本肝臓学会第 37回東部会 O- 85	日本の首都圏において、HBVの中でも慢性化率の高いgenotypeAは急速に増加しており、新規日本人キャリアからの二次感染が疑われることが急性B型肝炎症例の検討から明らかになった。
												感染症	第57回日本輸血・ 細胞治療学会 2009; 55; 245	日本赤十字社が2008年に収集し、報告した輸血関連感染(疑)症例149例の現状と解析結果である。149例の病原体別内訳は、HBV61例、HCV38例、細菌46例、HEV2例、HIV1例およびCMV1例であった。HBV4例、HEV2例および細菌2例については献血者検体から病原体を検出し、いずれも輸血と感染症との因果関係は高いと評価された。また、輸血後B型肝炎を発症した1例は、劇症肝炎により死亡した。日赤では2008年8月よりCLEIA法および新NATシステムを導入し、安全性の向上に努めている。
												E型肝炎	Emerging Infectious Disease 2009; 15; 704-708	E型肝炎ウイルス(HEV)のgenotype3は日本においては不顕性感染とされているが、重篤な肝炎を発症した国内8症例について、強毒性をもたらすHEVの遺伝的特徴を解析するため遺伝子配列を決定した。系統樹解析の結果、いずれも他のgenotype3とは区別され、JIO株と名付けられた固有のクラスターに分類された。このJIO関連ウイルスは他のHEVgenotype3とは異なる18のアミノ酸をコードしており、また、JIOクラスターのヒトHEV株のほぼすべてに共通する置換はヘリカーゼ領域(V239A)に位置し、V239Aはgenotype4では一般的であることから、毒性の増強と関連が示唆された。また、genotype3に属するswJ19株に感染した5匹のブタから遺伝子を解析した結果、同様にヘリカーゼにV239A置換が存在していたことから、JIO関連ウイルスが人獣共通であることが疑われた。

ID	受検日	番号	報告者名	一般名	生体組織 種別	原材料名	原産国	分類 区分	文 章	症 例	遺伝 子検査 法	感染症 (P/T)	出典	概要
												E型肝炎	第57回日本輸血・細胞治療学会 2009; 55; 244	北海道で献血者のHEV感染の実態を解析するため、2005年1月-2008年11月に北海道内の献血者1,075,793名について20本プールによるHEV NATを実施した。HEV NAT陽性者は140名であり、献血時のHEV抗体保有率は3割以下、感染初期の献血が多かった。陽性者のHEVのgenotypeは9割以上が3型で4型も認められた。陽性者の約7割は献血前に動物内臓肉の喫食歴があり、陽性者の半数にはその後ALT値の上昇が見られた。北海道内の献血者集団に於けるHEV RNA陽性頻度は高く、zoonotic infectionが起きていると考えられる。
												HIV	Pediatrics 2009; 124; 658-666	米国において9、15および39ヶ月の子供3例は、臨床症状から検査が行われた結果、HIV感染と診断された。2例については、母親がHIV感染者であるが、母乳は与えず、また周産期感染は否定された。3例目は、母親ではなく養育していた叔母がHIV感染者であった。全例とも、HIV感染者である養育者が食べ物を噛んで与えており、2例では噛み与えた大人に口腔内出血があった。EnvのC2V3C3またはgp41コード領域とgagのp17コード領域を用いた系統発生解析の結果は、3例中2例は養育者の噛み与えによってHIV感染が起きたという疫学的結論を支持した。
												HIV	第83回日本感染症学会総会 2009 April 23-24; 314	名古屋医療センターにおいて、4例にHIV-2の感染が疑われた。HIV抗体陽性かつ血中HIV-1RNAコピー数が検出限度以下を示した4例(外国籍男性3例、日本国籍女性1例)の末梢白血球より抽出したDNAを鋳型にPCRによりgagおよびenv領域の増幅後、遺伝子配列を決定した。4例中3例はHIV-2であることを確認し、日本国籍女性については確定診断に至らなかった。解析に成功した3例の内、1例はサブタイプA、他の2例はサブタイプ判定には至らなかった。日本国内においてもHIV-2のスクリーニングを強化する必要がある。
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2009; 4; e1000455	90527に同じ
												インフルエンザ	Virus Res. 2009; 140; 85-90	中国のブタからヒト様H1N1インフルエンザウイルスが検出され、ブタがヒトにおけるパンデミックを引き起こす古典的なインフルエンザウイルス保有宿主である証拠が示された。
												新型インフルエンザ (H1N1)	N Engl J Med 2009; 360; 2605-2615	90473に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ

国名	疾病名	発生年	発生地域	発生人数	死亡人数	報告機関	報告日	報告者	報告内容	出典	概要
	新型インフルエンザ (H1N1)									Eurosurveillance 2009; 14; 19244	2009年5月から6月における日本のインフルエンザA(H1N1)感染に関する疫学的な特徴がまとめられた。日本の16の都道府県から、インフルエンザA型(H1N1)ウイルス確定症例が合計401例報告された。最も感染の多かった2地域は、高校でアウトブレイクが発生し休校に至った大阪市および神戸市であり、6月4日までにこの2県で357例の感染が報告され、64%が15-19歳、10%が10-14歳であり、60歳以上は1%であった。2009年6月4日現在、重症患者および死亡例の報告はなく、インフルエンザA(H1N1)に感染した患者の病状の程度は季節性インフルエンザと同程度であった。
	ウイルス感染									日本感染症学会 第83回総会 P224 O-171	90505に同じ
	ウエストナイルウイルス									CDC (http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/surv&controlCaseCount08_detailed.htm)	2008年、米国におけるウエストナイルウイルス感染症例は46州から1356例が報告され、うち687例では脳炎や髄膜炎を発生、死亡に至ったのは44例だった。
	クロイツフェルト・ヤコブ病									Transfusion Epub 2009 January 5	米国。輸血のCJD伝播リスクについて。後にCJD発症した供血者36例と受血者436例を調査。受血者のうち生存91例、死亡329例、不明16例。受血後にCJDを発症した例は特定されず。
	チクングニヤウイルス感染									CDC 2009 August 17	2009年8月17日、米国CDCはアジアでのチクングニヤ熱のアウトブレイクに注意喚起をした。2009年1月以降、チクングニヤ熱症例数の増加がアジアの一部で報告されている。チクングニヤ熱は感染した蚊を介してもたらされるウイルスによって発症し、突発性発熱、関節痛、悪寒、頭痛、吐き気や発疹などを伴う。タイでは2009年7月22日現在、南部でアウトブレイクが起こり、34、200超の症例(死亡例なし)が報告され、マレーシアでは2009年7月18日現在、2900症例、インドでは2009年4月29日現在、2700例の疑い症例(死亡例なし)が報告された。渡航者へのアドバイスとして、チクングニヤ熱を防ぐ薬物治療やワクチンはないため、CDCは、虫除けを使用し、蚊にさされないよう自己防衛し、発症を自覚した際には、医療機関を受診するよう奨めている。
	バルボウイルス									FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ

ID	発症日	患者	感染経路	感染部位	病原体	検査結果	治療	経過	死亡	備考	論文 題名(PT)	出典	概要
											HTLV	47 news. 2009 Jun 27	厚生労働省研究班は2006-2007年に初めて献血した全国約119万人を対象に、HTLV-1の調査を実施した結果、3787人の感染が確認され、国内感染者数は約108万人と推計した。約20年前の前回調査の120万人と比べて大きな変化はなかった。研究班班長である山口一成国立感染症研究所客員研究員は、感染者の地域別割合の高かった九州で減少し、大都市圏(関東・中部・近畿)で増加したが、これは感染者が多い九州からの人の移動が背景にあると指摘した。
											HHV-8感染	Journal of Infectious Disease 2009; 199(11); 1592-1598	米国内で輸血を介したHHV-8感染の調査を行った。供血者-受血者のペアを明確にした米国内調査を行うため、1970年代に登録されたTTVS (Transfusion-transmitted Viruses Study)の参加者にHHV-8血清学的検査を行った。HHV-8抗体陽性率は、供血者では2.8%、受血者では7.1%、輸血されず手術を行った対照患者では7.7%、カポジ肉腫のある対照患者では96.3%であった。1例の受血者はセロコンバージョンしたが、この患者にはHHV-8陽性の血液ユニットは輸血されなかった。また、輸血されず手術を行った対照患者1例もセロコンバージョンした。セロコンバージョン率は、受血者が1.6(1000人-年あたり)であり、輸血を受けていない手術を行った対照患者では3.6(1000人-年あたり)であった。輸血群と非輸血群におけるHHV-8セロコンバージョン率には統計学的な差はなく、かつ過去の集団の特徴(例:白血球除去施行前)は現在の輸血を介した伝播が稀であることを示している。
											ウイルス感染	ProMED-mail 20090218.0669	ナイジェリアでは、2008年1月から12月にかけて、229人のラッサ熱感染疑い患者が報告され、30人が死亡している。また、2008年12月~2009年1月に、感染疑い患者及び感染確定患者はそれぞれ60%及び80%増加している。
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA 2009 February 17	90498に同じ
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2009; 457; 1079	最近、非定型BSEが日本、カナダ、米国、複数のヨーロッパ諸国で発生している。非定型BSEの可能性のあるプリオン遺伝子の突然変異は豪州や新西蘭でも発生する可能性があり、反芻動物の厳密な飼料管理等、将来のアウトブレイクの防止に必要な規制を緩和すべきではない。
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96; 270	90527に同じ

ID	発症日	報告番号	製剤名	成分	生体組織	抽出部位	製造国	製造工程	不純物	検出	検出検査	検出症(PrP)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20090108.0076	英国CJDサーベイランスユニットの統計によると、2009年1月5日時点でvCJD死亡患者数総数には変化はなく167例のままであり、英国におけるvCJD流行は減少しつつあるとする見解に一致する。
												BSE	OIE ( <a href="http://www.oie.int/eng/info/en_esbmonde.htm">http://www.oie.int/eng/info/en_esbmonde.htm</a> )	1989年から2008年までに、世界各国(英国を除く)から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたBSEの報告数である。
												BSE	OIE ( <a href="http://www.oie.int/eng/info/en_esbru.htm">http://www.oie.int/eng/info/en_esbru.htm</a> )	1987年以前から2008年までに、英国から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたBSEの報告である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2009 May 21	英国イングランドおよびスコットランドで扁桃摘出術により摘出された匿名の扁桃腺検体を対象に、プリオン蛋白質(PrPCJD)に関連した陽性率をcross sectional opportunistic survey(随時横断調査)により調査した。2008年9月末までに63,007の検査を行い、このうち12,753検体は最もvCJDが発症した1961-85年の出生コホート由来であり、19,908検体はBSEに曝露された可能性のある1986-95年コホートから集められた。2種類の酵素免疫法両方に明確に陽性を示す検体は無く、276検体はいずれかの検査に初回陽性を示し、その繰り返し陽性率は15%であった。免疫組織化学法もしくは免疫ブロット法を行った結果、この276検体を含め、陽性を示す検体はなかった。1961-85年の出生コホート由来の扁桃腺検体におけるPrPCJD陽性率は0/32661であり、1961-85年の出生コホート由来については0であり、過去の虫垂組織の調査結果よりは低かったが、矛盾はなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 2009 June 5	90527に同じ
143	2009/10/2	90551	サノフィアベンティス	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	脱線ウマ血液	ウマ血液	フランス	製造工程	無	無	無			
144	2009/10/2	90552	サノフィパスツール第一三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ウシ心臓浸出液	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無			
145	2009/10/2	90553	サノフィパスツール第一三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ウシ骨格筋由来成分(ペプトン)	ウシ骨格筋	オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	学術名称	原料形態	原産国	製造工程	有	無	無	出典	概要
146	2009/10/2	90554	サノフィバツール第一三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ペプトン	ブタ皮	米国及びカナダ	製造工程	有	無	無	<p>1)CDC/MMWR 2009; 58; 400-402</p> <p>2)WHO 2009 June 11</p> <p>3)WHO 2009 July 31</p> <p>4)ProMED-mail 20090703.2391</p>	<p>1)2009年4月17日、米CDCはカリフォルニア南部の小児2例の熱性呼吸器疾患をブタインフルエンザA(H1N1)感染であると特定した。アマンダジン、リマンダジンに抵抗性があり、過去に報告されていない固有の遺伝子断片の組み合わせが含まれていた。ブタ接触歴は無く感染源は不明である。</p> <p>2)2009年6月11日、WHO事務局長Margaret Chan博士は声明を発表した。WHOはインフルエンザパンデミックの警戒レベルをフェーズ5から6に引き上げ、世界は2009インフルエンザパンデミックの始まりにある。各国は高い警戒態勢を維持し、感染防御の実施などについて協力するよう呼びかけた。</p> <p>3)2009年7月31日現在、IHR加盟国よりWHOへの公式な報告があった、パンデミック(H1N1)2009感染の確定検査がなされた症例数について公表された。少なくとも1例のパンデミック(H1N1)2009確定診断を報告した国は168に上った。</p> <p>4)2009年7月2日現在、日本でタミフル耐性を示す新型H1N1インフルエンザの遺伝子的変異株を初めて確認した。厚生労働省は患者のタミフル感受性は検査済みであると報告した。この患者は、2009年5月に新型インフルエンザ感染の確認がなされ、回復しており、年齢および性別は不明である。なお、世界で最初にタミフル耐性が認められたのは、デンマークであった。</p>
												<p>N Engl J Med 2009; 360: 2605-2615</p>	90473に同じ
												<p>Science 2009; 325: 197</p>	<p>新型インフルエンザA(H1N1)の抗原的及び遺伝的特徴について示している。2009年4月に特定された2009A(H1N1)ウイルスは直近の系統との間に類似性が無く、長期間検出されずに循環していた。また、遺伝的多様性が低く、ヒトへの感染は類似ウイルスの単回もしくは複数回の感染であったことが示唆された。ヒトへの順応を予測する分子マーカーは、現在存在しておらず、未知の分子決定因子がヒトへの伝播を果たしてきた。抗原的には、北米ブタA(H1N1)ウイルスと類似し、季節性ヒトA(H1N1)とは区別される。</p>
147	2009/10/2	90555	サノフィバツール第一三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	カゼイン酸加水分解物	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無		
148	2009/10/2	90556	サノフィバツール第一三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ヘミン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無		
149	2009/10/2	90557	サノフィバツール第一三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	カゼインパンクレアチン消化物	ウシ乳	米国、ニュージーランド、オーストラリア、	製造工程	無	無	無		

ID	発症日	発症者	病原体	宿主	感染部位	感染経路	製造国	製造工程	有効成分	有	無	無	修正 位置	感染症 (PT)	出典	概要
150	2009/10/2	90558	サノフィバ ツール第一 三共ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb 型ワクチン(破傷風 トキソイド結合体)	肉エキス	ウシ肝臓及 び肺	フランス	製造 工程	無	無	無					
151	2009/10/2	90559	サノフィバ ツール第一 三共ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb 型ワクチン(破傷風 トキソイド結合体)	トリプトンV	ウシ乳	ニュージ ーランド	製造 工程	無	無	無					
152	2009/10/2	90560	サノフィバ ツール第一 三共ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb 型ワクチン(破傷風 トキソイド結合体)	カゼインペ プチドN3	ウシ乳	ニュージ ーランド	製造 工程	無	無	無					
153	2009/10/2	90561	サノフィバ ツール第一 三共ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb 型ワクチン(破傷風 トキソイド結合体)	スキムミル ク	ウシ乳	米国及び英 国を除くヨ ロッパ	製造 工程	無	無	無					
154	2009/10/7	90562	富士製薬工 業	ヒト絨毛性性腺刺 激ホルモン	ヒト絨毛性 性腺刺激 ホルモン	妊婦の尿 抽出物	中国	有効成 分	有	無	無		レンサ球菌 感染	日本感染症学会 第83回総会 P225 O-173	90479に同じ	
													新型インフル エンザ (H1N1)	WHO/WER 2009; 84; 173-184	新型インフルエンザ(H1N1)が発生し、警戒レベルは2009年4月 29日にフェーズ5まで引き上げられた。5月12日時点では、30カ 国、5251例の感染例がWHOに報告されている。	
													ウイルス感 染	ProMED-mail 20090515.1821	ヒトにおける初のシカダニウイルス感染例の報告(出典NEJM)。 ニューヨークの62歳男性がシカダニウイルスに感染したシカダ ニの咬傷を受けた後、髄膜脳炎で死亡した。	
													異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Emerg Infect Dis. 2008; 14; 1406- 1412	263Kスクレイピーの臨床症状を呈するハムスター22匹の尿に TSE感染性があることが示された。これらの動物の腎臓と膀胱 のホモジネートは20000倍以上希釈してもTSE感染性があった。 組織学的、免疫組織化学的分析では、腎臓における疾患関連 PrPの散発的な沈着以外、炎症や病変は見られなかった。尿中 のTSE感染性が、自然のTSEの水平感染に何らかの役割を果 たす可能性がある。	



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有成分	交配	金箔	適正使用期限	感染症(P1)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Journal of General Virology 2007; 88: 2890-2898	ハムスタースクレイピープリオン株Sc237をハムスターに脳内接種し、終末期のハムスターの尿中からPrPsc(misfolded prion protein)をPMCA法を用いて検出した。TSE感染動物から尿中PrPscを検出した初の報告である。終末期に採取したバフィーコートおよびプラズマ中においてもPrPscが検出された。また、経口投与した場合には、投与後103-166日のプラズマ、バフィーコートおよび脳中にPrPscを検出し、投与後4日で尿中に排泄されるが、その後終末期まで尿中PrPscは検出されなかった。プラズマおよびバフィーコート中と比べて尿中PrPscの検出にはタイムラグがあり、また、終末期にあっても尿中PrPscが検出されない個体もあった。TSE感染動物から尿中PrPscを初めて生化学的手法を用いて検出した報告である。
155	2009/10/7	90563	富士製薬工業	トロンピン	トロンピン	ウシの血液	オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
156	2009/10/7	90564	富士製薬工業	トロンピン	トロンボプラスチン	ブタの肺	デンマーク	製造工程	無	無	無			
157	2009/10/7	90565	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ハートエキス	ウシの心臓	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
158	2009/10/7	90566	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド	カザミノ酸	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
159	2009/10/7	90567	デンカ生研	ウイルス病秋やみ混合ワクチン コレラワクチン	ポリペプトン	ウシの乳	中国又はポーランド	製造工程	無	無	無			

ID	発症日	患者	製薬会社	ワクチン名	生産原料	原料原産国	製造国	製造工程	ウイルス	感染	適正使用情報	感染症(PID)	出典	概要
160	2009/10/7	90568	デンカ生研	沈降精製百日せき ジフテリア破傷風 混合ワクチン 沈降ジフテリア破 傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソ イド 沈降精製百日せき ワクチン ジフテリアトキソイ ド コレラワクチン	スキムミルク	ウシの乳	日本又はア メリカ	製造 工程	無	無	無			
161	2009/10/7	90569	デンカ生研	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワク チン	ラクトアル ブミン水解 物	ウシの乳	ニュージ ランド又は オーストラ リア	製造 工程	無	無	無			
162	2009/10/7	90570	デンカ生研	日本脳炎ワクチン	ウシ胎児 血清	ウシ胎児の 血液	アメリカ	製造 工程	無	無	無			
163	2009/10/7	90571	デンカ生研	インフルエンザHA ワクチン インフルエンザワ クチン	尿膜腔液	ニワトリの 受精卵	日本	製造 工程	無	無	無			
164	2009/10/7	90572	デンカ生研	沈降精製百日せき ジフテリア破傷風 混合ワクチン 沈降ジフテリア破 傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソ イド	ペプトン	ブタの胃	日本又はア メリカ	製造 工程	有	無	無	インフル エン ザ	GDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 April 21)	2009/4/17米CDCはカリフォルニア南部の小児2例の熱性呼吸器疾患をブタインフルエンザA(H1N1)感染であると特定した。アマンドジン、リマンドジンに抵抗性があり、過去に報告されていない固有の遺伝子断片の組み合わせが含まれていた。ブタ接触歴は無く感染源は不明。
												新型イン フル エン ザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 April 28)	ブタ由来インフルエンザA(H1N1)ウイルス(S-OIV)感染に関する米国および他国における更新情報がCDCより報告された。2009年4月28日現在、米国では感染者総数は64例、カルフォルニア州(10)、カンザス州(2)、ニューヨーク州(45)、オハイオ州(1)およびテキサス州(6)であった。CDCと州・地方保険局は報告された国内症例全例について症状および疫学調査を実施しており、4月27日に更新されたS-OIV感染の定義を示した。CDCに報告のあった年齢が既知の47例は、年齢中央値は16歳、81%が18歳以下、約半数は男性であった。現在までに国内症例で死亡はなく、5例が入院した。また、4月27日、FDAは緊急使用を認める4つのEUA(オセルタミビル、ザナミビル、N95レスピレーターおよびrRT-PCRブタインフルエンザパネル)を公表した。

ID	受理日	番号	報告者名	製品名	生物由来	原料種名	原産国	含有成分	文書	有効成分	真正使用情報	感染症(PT)	出典	概要
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 April 30)	2009年3月から4月上旬にかけてメキシコで呼吸器疾患のアウトブレイクが発生した。3月1日から4月30日までに合計1918例の重症呼吸器疾患症例が報告され、うち286例がインフルエンザA陽性、97例がRT-PCRにより新型インフルエンザA/H1N1と確定された。死亡例は合計84例が報告された。このインフルエンザウイルスはカリフォルニアの小児患者2例から同定されたウイルスと同一の株であることが判明した。
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: 453-458 (2009 May 8)	世界各国における新型インフルエンザA(H1N1)ウイルス感染の更新情報をCDCが報告した。2009年5月6日現在、総計21カ国において1882例の新型インフルエンザA(H1N1)ウイルス感染が確認された。4月29日にWHOはパンデミック警戒レベルをフェーズ4から5へ引き上げ、少なくとも2カ国ではヒト-ヒト間におけるウイルスの感染が起きている。メキシコでは、11,932例の疑い症例、949例の確定症例が報告され、うち42例は死亡に至った。米国では、5月6日現在、642確定症例および845疑い症例 (probable cases)が43州から報告された。他国においては、4月26日に、米国およびメキシコを除いて最初に新型インフルエンザA(H1N1)感染が報告されたのはカナダであった。5月6日現在、WHOはメキシコおよびアメリカを除く21カ国において309例の確定症例を報告した。
		90572										新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 May 12)	2009年4-5月、米国で新型インフルエンザA(H1N1)ウイルスに感染した妊婦3例について、CDCは症例経過を報告した。5月10日までに米国内で新型インフルエンザA(H1N1)に感染した妊婦は20例に上った。データとして使用可能な13例の年齢中央値は26歳で、3例が入院し、うち1例は死亡した。妊婦が新型インフルエンザA(H1N1)ウイルスに感染した場合には抗ウイルス薬を5日間服用する。望ましい治療薬はオセルタミビルであり、発症してから48時間以内の服用が望ましい。
165	2009/10/7	90573	デンカ生研	沈降精製百日せきワクチン	ヒツジ血液	ヒツジの血液	不明	製造工程	無	無	無			
166	2009/10/7	90574	デンカ生研	ワイル病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギの血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
167	2009/10/7	90575	デンカ生研	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウスの脳	日本	製造工程	無	無	無			
168	2009/10/7	90576	東菱薬品工業	バトロキソピン	バトロキソピン	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			
169	2009/10/7	90577	東菱薬品工業	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	ウサギ皮膚	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			

品名	製造年月	製造番号	製造会社	成分	原料	産地	有効成分	無	無	無	感病性(%)	出典	概要	
170	2009/10/7	90578	日本化薬	乾燥BCG膀胱内用(コンノート株)	生きたカルメット・ゲラン菌(BCG・コンノート株)	牛型結核菌生菌	カナダ	有効成分	無	無	無			
171	2009/10/9	90579	日新製薬	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸	中国	有効成分	有	無	無	新型インフルエンザ(H1N1)	1)WHO Disease Outbreak News 2009 April 24 2)WHO Swine influenza-update3 2009 April 27	1)2009年4月24日、米国政府は米国内でブタインフルエンザA/H1N1に感染したヒト7例の確定症例および9例の疑い症例を報告した。確定された7例全例は軽度のILI(Influenza-Like Illness)を呈し、1例が短期入院し、死亡例はなかった。メキシコ連邦区では3月18日から症例を取り上げた監視を始め、4月23日現在、首都では854例を超える肺炎例が報告され、うち59例が死亡した。メキシコ人症例のうち、18例はカナダでブタインフルエンザA/H1N1であると確定診断がなされ、12例はカリフォルニア由来のブタインフルエンザA/H1N1と遺伝学的に一致した。WHOは引き続き米国、メキシコおよびカナダ当局と連絡を取り、これらILI症例のリスク把握に努める。 2)2009年4月27日現在、米国政府はブタインフルエンザA(H1N1)に感染したヒト確定症例40例を報告した。死亡例はなかった。メキシコでは26確定症例を報告し、うち7例は死亡例であった。カナダは6症例を報告したが死亡例はなく、スペインは1例で死亡例はなかった。
172	2009/10/9	90580	日新製薬	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	新型インフルエンザ(H1N1)	1)WHO Disease Outbreak News 2009 April 24 2)WHO Swine influenza-update3 2009 April 27	90579に同じ
173	2009/10/9	90581	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胸腺細胞	ヒト胸腺	ベルギー、スペイン、フランス、イタリア、リトアニア、ポーランド、ノルウェー、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、スロバキア、チェコ共和国	製造工程	無	無	無			
174	2009/10/9	90582	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	ウマ血漿	フランス	有効成分	無	無	無			
175	2009/10/9	90583	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	赤血球ストローマ	ヒト血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
176	2009/10/9	90584	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胎盤組織	ヒト胎盤	フランス	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来	原料名	原産国	含有成分	有効成分	有	無	無	無	感染症(P1)	出典	概要
177	2009/10/9	90585	ニプロファーマ	ヘパリンナトリウム注射液 ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア	有効成分		有	無	無		エボラ出血熱	WHO/EPR 2009 March 31	2009年2月16日、フィリピン政府からの発表によると、豚に日常的に接触のある処理施設の労働者1例にEbola Reston virus(ERV)抗体に陽性反応が認められた。これにより6例が、2008年12月の検査開始以降、フィリピン国内でERV抗体陽性となった。この6例すべてが仕事で豚に触れている。フィリピン保健当局は、陽性反応を示した6例すべては健康であり、ブタからヒトへの移行が感染源として最も可能性が高いとしている。
178	2009/10/9	90586	テルモ	-	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国、中国	有効成分		有	無	無		新型インフルエンザ (H1N1)	OIE 2009 May 5	カナダにおけるA/H1N1インフルエンザ:発生日 2009年4月21日、最初の確定日 2009年5月1日、報告日 2009年5月2日、原因 新型A/H1N12009インフルエンザウイルス。2009年4月21日にALBERTA Clearwater州でA/H1N1インフルエンザのアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ3013頭、発生頭数ブタ450頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
														新型インフルエンザ (H1N1)	OIE 2009 July 9	アルゼンチンにおけるA/H1N1インフルエンザ:発生日 2009年6月15日、最初の確定日 2009年6月24日、報告日 2009年7月8日、原因 新型A/H1N12009インフルエンザウイルス。2009年6月29日にBUENOS AIRES Canuelas CanuelasでA/H1N1インフルエンザのアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ6104頭、発生頭数ブタ1632頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
														インフルエンザ	OIE 2009 July 31	オーストラリアにおけるA/H1インフルエンザ:発生日 2009年7月24日、最初の確定日 2009年7月31日、報告日 2009年7月31日、原因 インフルエンザA H1サブタイプ。2009年7月24日にNew South Wales地方New South Wales中西部でインフルエンザA H1サブタイプのアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ1950頭、発生頭数ブタ100頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
														口蹄疫	OIE 2009 May 15	中国における口蹄疫:発生日 2009年4月28日、最初の確定日 2009年5月14日、報告日 2009年5月15日、原因 口蹄疫ウイルス アジア1型。2009年4月28日にGUANGXI省 Guilin地区 Lingchuanで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ウシ40頭およびブタ60頭、発生頭数ウシ1頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
														口蹄疫	OIE 2009 May 25	台湾における口蹄疫:発生日 2009年5月25日、最初の確定日 2009年5月20日、報告日 2009年5月23日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2009年5月18日にPING-TUNG Yanou townshipで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ13176頭、発生頭数ブタ280頭、死亡例0頭であった。

ID	発症日	発症番号	製造者	製品名	成分	原料	製造工程	有効成分	有害成分	有害成分	有害成分	発症(PT)	出典	概要
												口蹄疫	OIE 2009 August 4	コロンビアにおける口蹄疫:発生日 2009年8月4日、最初の確定日 2009年8月4日、報告日 2009年8月4日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2009年7月29日にNARINO Ipiales ElCharcoで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ウシ22頭およびブタ9頭、発生頭数ブタ9頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
												ブルセラ症	OIE 2009 August 3	ドイツにおけるブルセラ症:発生日 2009年6月9日、最初の確定日 2009年6月10日、報告日 2009年8月3日、原因 ブタ流産菌。2009年6月9日にMECKLENBURG-VORPOMMERN Muritz Melzでブルセラ症のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ4463頭、発生頭数ブタ22頭、死亡例22頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
												エボラ出血熱	CDCR Weekly 2009 July 17	2008年5月にフィリピンでブタからエボラレストン株が検出された。この株の研究者は、この株はヒトでの発病にはつながらないが、ヒトの食物連鎖における危険性を懸念している。ブタ群は、レストン株がヒトで発病する型へと変異するのに都合のよい宿主である可能性があり、また、ヒトに害を及ぼす他のエボラ株の宿主にもなる可能性が懸念されている。
179	2009/10/9	90587	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ウシ血液	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
180	2009/10/13	90588	扶桑薬品工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	インフルエンザ	Eurosurveillance 2009; 14: 1-2	2008年11月8日、スペイン北東部、家内養豚場勤務の50歳女性がインフルエンザ様症状を発症し、ブタインフルエンザAH1N1が検出された。近縁者、同僚等での症状は認められていない。
												インフルエンザ	CDC FluView Week8 ending 2009 February 29	2009年2月22-28日における米国内インフルエンザの推移状況。インフルエンザA(H1,H3, unsubtype)およびBの感染状況などの報告が述べられており、新規インフルエンザA(H1N1)ウイルスのヒトへの感染例は1例であり、病気のブタとの接触があった。
												インフルエンザ	CDC/MMWR 2009; 58: 369-374	新規のインフルエンザAウイルスに関して、2009年2月28日にアイオワ州からブタインフルエンザA(H1N1)の3歳男児への感染例が報告された。ブタへの密接な接触が確認されており、男児は回復した。米国における今シーズン3例目のブタインフルエンザ感染例である。

ID	発症日	発症地	製薬会社名	成分	原料由来	原料産地	有効成分	有	無	無	無	真正偽造 偽造	感染症 (PT)	出典	概要
													サルモネラ	Eurosurveillance 2009; 14: 1-6 2009 March 12	2008年11-12月、ノルウェイおよびデンマークはそれぞれMLVA法で分類されるSalmonella Typhimurium感染によるアウトブレイクを特定した。デンマークでは全37症例が特定され、ノルウェイでは10例、スウェーデンでは4症例が特定された。スウェーデンで購入したデンマーク産肉が可能性のある感染源として示された。12月19日にノルウェイから警告がなされ、デンマークおよびノルウェイのアウトブレイクは同一であり、3国すべてのアウトブレイク感染源はデンマーク産豚肉由来である事が確認された。MLVAは異なる圏間でのアウトブレイクをつなぎ、感染源を追跡する方法として有効である。
													インフルエンザ	KAKE 10 abc news 2009 August 6	カンザス州ライリー郡在住の子供が一般的にはヒトに感染しないブタインフルエンザH3N2ウイルスに感染した。他に確認された症例はなく、調査中である。H3N2ウイルスは北アメリカのブタ間で一般的に流行しており、4月中旬に米国で初めて検出されたブタ由来パンデミック H1N1ウイルスとは異なる。カンザス州当局は、H3N2ウイルスはパンデミックH1N1ウイルスとは関係していない事、およびパンデミックH1N1ウイルスの変異や組換えによるウイルスではなく、現時点では、ヒトの健康に脅威を及ぼしてはいないと報告した。子供はブタとの直接の接触があり、7月末に感染したと考えられ、インフルエンザ様症状を呈したが完全に回復し、家族からの病気の報告はなかった。
													インフルエンザ	N Engl J Med 2009; 360: 2616-25	米国での2005年から2009年における調査の報告。3種(トリ、ヒトおよびブタ)が再集合したブタインフルエンザA(H1)ウイルスのヒトへの感染についての11症例の報告。
181	2009/10/13	90589	田辺三菱製薬株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア	有効成分	有	無	無		新型インフルエンザ (H1N1)	WHO/EPR 2009 April 24	米国、メキシコにおけるインフルエンザ様疾患について：米国政府は米国内の7人の豚インフルエンザA/H1N1確定症例(5人がカリフォルニア、2人がテキサス)と9人の疑いがある症例を報告した。死亡症例は報告されていない。メキシコ政府は3つの別々の事例を報告しており、メキシコ連邦区ではインフルエンザ様疾患が拳がり始め、4月23日までに854人以上の肺炎が発生し、うち、59人は死亡している。
													新型インフルエンザ (H1N1)	WHO/EPR 2009 April 26	2009年4月26日現在、米国政府はブタインフルエンザA/H1N1感染を確認した20症例を報告した。全20例は軽度のインフルエンザ様症状を呈し、1例が入院した。メキシコ政府は4月26日現在、ブタインフルエンザA/H1N1感染を確認した18症例を報告した。WHOとGOARN(Global Outbreak Alert and Response Network)はメキシコ当局に協力するため専門家を派遣した。





ID	発現日	番号	製造者名	成分・性状	使用部位	原産国	有効成分	有	無	無	無	感染症(PT)	出典	概要
												新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 Press Release 2009 August 15	2009年8月15日、厚生労働省は報道関係者に新型インフルエンザ患者の死亡例について発表した。死亡例は沖縄県在住の50代男性で、感染源は不明である。慢性腎不全による透析のため通院中、8月10日には感冒症状と36度台の発熱があったがA型陰性であり、8月12日、39度の発熱がありA型陽性であった。タミフル投与後入院治療したが、8月14日、うっ血性心不全が疑われ、15日には循環不全となり死亡された。PCRの結果、新型インフルエンザ陽性を確認した。
												新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 Press Release 2009 August 4	2009年8月4日、厚生労働省は報道関係者に大阪府より感染症法に基づく急性脳炎としての届出がなされたと発表した。8月3日のPCR検査結果により、新型インフルエンザの感染が確認された患者(5歳男子、豊中市在住)は急性脳炎(インフルエンザ脳炎)を発症したが、4日には脳炎の症状は残存するものの、解熱し、回復に向かった。
182	2009/10/14	90590	武田薬品工業	乾燥弱毒生風しんワクチン - 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウサギ腎細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
183	2009/10/14	90591	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	アンチトロンビンⅢ	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	マラリア	CDC/MMWR 2009; 58; 229-232	90498に同じ
												細菌感染	日本細菌学会第82回総会(2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ
184	2009/10/14	90592	化学及血清療法研究所	人免疫グロブリンヒスタミン加人免疫グロブリン製剤	免疫グロブリン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	マラリア	CDC/MMWR 2009; 58; 229-232	90498に同じ

ID	登録日	承認番号	製剤名	原料	製法	製造国	製造工程	無菌	無熱	無毒素	感染症(PT)	出典	概要	
											細菌感染	日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ	
											新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ	
											新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ	
185	2009/10/14	90593	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	マウス由来モノクローナル抗体	マウス脾臓	日本	製造工程	無	無	無			
186	2009/10/14	90594	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ガスエウマ抗毒素 ガスエウマ抗毒素 乾燥ソフテリアウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ペプシン	ブタ胃	米国	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
187	2009/10/14	90595	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブ	ウマ血漿	フランス	有効成分	無	無	無			
188	2009/10/14	90596	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胸腺細胞	ヒト胸腺	ベルギー、スペイン、フランス、イタリア、リトアニア、ポーランド、ノルウェー、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、スロバキア、チェコ共和国	製造工程	無	無	無			
189	2009/10/14	90597	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	赤血球ストローマ	ヒト血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
190	2009/10/14	90598	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胎盤組織	ヒト胎盤	フランス	製造工程	無	無	無			
191	2009/10/14	90599	あすか製薬	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			